

ふえる火事と焼死者

火災予防と避難はこのように

今年は何年よりも火事が多く、1月に5件、2月に7件とすでに12件で、昨年同期の6件に比べて2倍多く発生しております。また残念なことは、火災による死者が多いことで、大館では3名、県内では12名の焼死者が出ております。

非常時に備えて避難方法などを考えておけば、焼死しないですむ例が多いので消防署では次のことに注意され、火災と焼死事故を未然にふせぐようのぞんでおります。

● 火災予防について

- ①石油ストーブ、コンロ等、便利な器具ほど危険がともなうので、取扱いは十分注意すること。
- ②重油バーナーが多く使われるようになりましたが、油が洩らないように注意すること。(ビニール管を使っているものは特に危険です)
- ③酔った時の寝たばこ、炬燵やコタツで寝ることはやめること。
- ④寝る前にはもう一度火の元を確かめること。

● 焼死者をださないために

居間、寝室は…①幼児、老人、病人は階下の避難しやすい所を居間、寝室にす

- ること。
- ②二階のある家は、窓から容易に避難できるような状態にし、まごつかないで避難できるよあらかじめ周知しておくこと。
- 避難口は……①2ヶ所以上に避難口を設け、居間、寝室等から容易に避難できるようにしておくこと。
- ②避難口の戸は、家族のだれもがあけることのできる構造、施錠にし、雪などの障害物を取り除いておくこと。
- ③幼児、老人、病人だけを家において外出しないこと。やむを得ない場合は、隣家や知人等に託すか、留守番を頼むこと。

● 火事のはきは

- ①電話で消防署へ知らせること。(消防車が出動すると罰金をとられると思っている人がいますが、そんなことは絶対ありません)
- ②火事ふれして近所に知らせること。(びっくりして声が出ないときは、バケツや洗面器等をたたいて知らせる)

● 避難するときは

- ①あわてて立ったまましていると煙を吸い込むから、できるだけ姿勢を低くして

- 部屋の隅をつたって避難口へ出ること
- ②煙の中を避難するときは、鼻、口を布で覆い、また、火焰のときは、寝具を頭からかぶって思いきってくぐりぬけること。
- ③二階において、階下から火事がでた時は最も危険ですから、まず一度外へ出てから処置を考えること。
- ④階段から降りられない時は、窓からロープや物干竿、または雨といをつたわって降りること。
- ⑤階段や窓からロープ等をつたわって避難できないときは、布団を何枚も落しにその上にとび降りるか、その余裕もないときは、布団をできるだけ多く持ったままとび降りること。

昨年中の月別、原因別火災発生件数と損害額は次のとおりです。

月	別	原因	別	
1月	3件	コ	タ	7件
2	3	煙	突	6
3	2	タ	バ	5
4	15	プロパンガス		5
5	7	火	あ	5
6	2	た	き	4
7	1	石油	コンロ	2
8	7	重油	バーナー	2
9	3	モーター	過熱	2
10	2	そ	の	17
11	8			
12	2	計		55

損害額 1.690万円

交通事故をなくしよう

「交通教室」で小、中学生が正しい交通の勉強

新聞で交通事故が報道されない日がないくらい、毎日のように各地でいたましい事故が発生しております。

昨年は、大館市で263件の事故があり12名の死者を出しましたが、これは、県都秋田市に次ぐ多い件数です。

市の教育委員会では交通事故を1件でも少なくしようと、2月15日、市内の各小中学校から62名の生徒さんと担当の先生に集っていただき、正しい交通について勉強する「交通教室」をひらきました。

この日は、大町で自動信号機と手信号による正しい交通と信号機の見かたについて実地指導を受けた後、秋田北部自動車学校で、講義による交通指導と各学校で行なっている交通事故防止対策について生徒さんが発表し合いました。

各学校から発表されたおもなことは、次のとおりです。

桂城小学校……毎週金曜日を「交通安全の日」にきめて、正しい歩き方、正しい自転車のりを指導する。

校庭に自転車の試験場をつくり、自

転車をもっている3年生以上の生徒について技術試験を行ない免許証を交付する。

毎朝、登校時に交通安全のレコードをかけ注意をうながすとともに、できるだけ黄色の安全帽をかぶり身を守るようにしている。

積内小学校……4年生以上

の30名からなる交通安全部が主体となって年間計画をつくり、実施活動をしている。

春と秋の交通安全旬間に、校庭にラインを引き、3年生以上の生徒が参加して交通教室をひらき、また、ろうかの正しい歩き方の指導を行なっている。

川口小学校……地区内の5・6年生49名で、「鉄道愛護子ども会」をつくり、踏切の一時停止の励行や、線路への置石、駅構内の歩行について注意するチラシを配布するなど、踏切安全運動や列車妨害防止運動について積極的に協力している。

その他、安全な遊び場の設置、通学路



【写真】 交通教室に集った生徒さん方と、円内は交安対策について発表する積内小の菅原英利子さん

の横断歩道に大きな標識を立てることや踏切に警報機をとりつけることなどについて要望がのべられました。

大町の交叉点で良く見かけることは、町の立派さにくらべて交通規則を守らない人がたいへん多いということです。交通事故の大部分は、自動車の運転者が安全運転をしないか、歩行者の規則違反に原因があります。

交通信号機を確認し、横断歩道を渡るお子さんが多いのにくらべ、おとなは、平気で信号を無視し、ななめ横断しております。自分の身を守るため、また、子どもを指導するおとなの立場からも、みんなで正しい交通に心がけましょう。